

県立中央病院連携室だより

-ともに歩む地域医療-

Vol.19

●発行日／平成27年5月
●発行／岩手県立中央病院地域医療福祉連携室 〒020-0066 盛岡市上田1-4-1 TEL 019 (653) 1151
●URL／<http://www5.pref.iwate.jp/~chuohp/>

地域医療連携推進の基本方針

1. 顔の見える連携
2. 地域連携パスと逆紹介の推進
3. 紹介患者の迅速予約と優先診療
4. PHS による Dr. Direct Call
5. 24 時間救急受け入れ体制
6. 地域医療福祉連携室を通じた地域包括型連携の推進
7. 高額医療機器の共同利用推進
8. 地域医療研修センターの利用の推進

今「看取り」を考える ―地域包括ケアの構築に向けて― 岩手県立中央病院長 望月 泉

「看取り」とは死亡確認することなのだろうか。「看取り」とはももとは、「病人のそばにいて世話をする」、「死期まで見守る」、「看病する」という、患者を介護する行為そのものを表す言葉であった。「平穏な死」、「お迎えが来た」といったソフトな別れのイメージがあり、「緩和ケア、終末期ケア」や「エンゼルケア」と密接な関係がある。わが国は戦後医療・医学の進歩と衛生環境および食料事情の改善などにより世界一の長寿国となった。1960年には5.7%であった高齢化率(65歳以上の高齢者人口の総人口に占める割合)は2010年には23.1%となり、過去50年間で4倍以上となった。さらに団塊の世代が75歳以上となる2025年には高齢化率は30%を超え、このままの出生率だと2060年には総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は40%近くになると想定されている。世界に類のない未曾有な高齢社会を迎えることになり、同時に多くの人が亡くなるいわゆる「多死社会」となる。また、認知症の人数も急速に増加してきており、現在約250万人が認知症を患っているが、20年後には350万人以上、30年後には430万人になると見込まれている。こうした状況の中、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が急がれている。「いのちの終焉は畳の上で家族に見守られて終わりたい。」と多くの日本人は願っている。厚生労働省の調査によると、自宅で最期を迎えたいという人は70%以上で、医療や介護の必要度合いにもよるが、多くの人が自宅で看取られたいと希望しているが、現実的には、医療機関になってしまうというのが現実である。亡くなった場所は、1960年には病院での死亡が18.2%、自宅が70%であったが、高度成長社会、核家族化にともない、2007年には病院での死亡が79.5%、自宅が12.3%と完全に逆転している。

死を迎えるに当たり、身体的な生命の終わり(脈がなくなった、呼吸

が止まった、瞳孔が散大した)は誰もが目に見える形の現象であり、「看取り」とは残される人、愛する家族、友人がその人と共に歩んだ全人生を看取ることである。看取られる人は苦しさから解放されるが、残される人はそれを乗り越えて生きていかなければならない。ここに、いのちの連続性があると思う。病院での死は異常な死、本来あってはならない死である。なぜなら病院は助けるために全力を尽くす場であり、“延命処置”、“生命監視装置”が装着される場合が通常である。過剰で不必要な治療が行われている可能性があり、さまざまな延命治療を推し進めてきた医療現場は自然で穏やかな死への道筋を見落としてきたのではないだろうか。

患者さん本人が自宅で最期を迎えたいと思っても、実際に容態が急変すると多くの人は動揺し、様子を見かねて家族が救急車を呼んでしまい、結果的に医療施設で亡くなるというケースもよくある。在宅看取りには本人と家族、医師、看護師の連携がきわめて重要で、医師からは現在の状態はもちろん予測される身体の変化の样子の説明を受け、状況に応じた連携先についても整理しておく。必要なのが本人と家族が死を受け入れる「心の準備」である。患者が在宅で亡くなられた場合、家族はやり遂げたという感想を抱かれる。家族にはお別れは悲しいことではあるが、悲しみはいつかは癒され、家族の成長の糧となるような心から感動できる経験である。自宅で家族だけで看取することは十分可能である。死は医療の問題ではなく、社会の問題で繰り返される人間の文化である。地域ぐるみで助け合い、医療や介護に関わり、行政がサポートし、社会を維持していく必要がある。これが求められている地域包括ケアのあるべき姿であり、是非とも構築していかなければならないと考える。



地域医療支援部長交代のご挨拶

岩手県立中央病院地域医療支援部長 相馬 淳

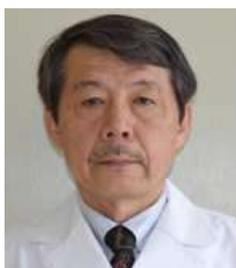
平素より当院の運営に多大なるご理解とご協力・ご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。これまでの村上晶彦前副院長（現県立宮古病院長）に代わり地域医療支援部長に任命されましたので、簡単ではございますがご挨拶をさせていただきます。



当院は、平成 19 年 7 月 18 日に地域医療支援病院の承認を受け、それ以前より脈々と継承されてまいりました当院としての使命、つまり、1) 医師充足率の低い地域への診療支援やサブスペシャリティをもつ医師の派遣など、県立病院や市町村立病院医療機関への診療応援、2) 地域医療支援病院としての地域の医療機関との役割分担と連携の強化、そして、3) 地域医療研修センターとして医療従事者および市民に対する教育・啓蒙活動などにさらに積極的に取り組んでまいりました。平成 25 年度の診療応援は年間延べ約 2,300 日に及びましたが、今後も支援のご依頼には極力お応えしていく所存であります。また、当院には、「高度急性期医療を推進する県民に信頼される親切であたたかい病院」という基本理念がございます。地域の中核病院として、県民から頼られる急性期病院・救急医療施設としての役割を十分に発揮するためには、これまで以上に県民の信頼を厚くし、地域医療機関との連携が必須と考えられます。連携室としては、さらに迅速な情報提供、円滑な取次・対応に努めてまいり所存ではありますが、お気づきの点、ご要望などございましたらご遠慮なさらずお知らせいただければ幸いです。市民公開講座は年 6 回行っておりますが、さらに多くの市民に参加していただけるよう講座開催のお知らせ方法の工夫、市民が講演を聞くだけでなく参加できるような参加型講座の工夫、よりタイムリーな話題の提供など、さらに改善を加えてまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、県民のための地域医療支援をさらに質の高いものにするよう努力してまいり所存でございますので、皆様のさらなるご指導、ご鞭撻、ご協力をお願いいたします。

新任常勤医師のご紹介



腎センター長
ちば けんじ
千葉 裕



麻酔科医長
のぐち こうき
野口 浩輝



麻酔科医長
すがぬま こうへい
菅沼 紘平



消化器外科医長
てしま じん
手島 仁



内視鏡科医長
こさか たかし
小坂 崇



整形外科医長
かなざわ けんじ
金澤 憲治



循環器科医長
かなざわ まさひろ
金澤 正範



心臓血管外科医長
たかはし ごろう
高橋 悟朗



登録医

ご紹介コーナー

今回は、盛岡市長橋町の『医療法人明慧会あべ内科・消化器科クリニック』をご紹介いたします。

県立磐井病院に 9 年勤務した後、当地に開業して 11 年になろうとしております。今だに苦労が尽きませんが、県立中央病院には、以前からのさまざまな繋がりのある先生が多くいろいろな場面で助けていただいております。

昨年 (H26 年) 当院から県立中央病院各科への紹介

数は消化器内科 94、消化器外科 9、呼吸器内科 14、循環器内科 10、総合診療科 4 (DM など)、血液内科 3 (MDS など) 神経内科 2、泌尿器科 19、産婦人科 5 (卵巣腫瘍など)、小児科 1、小児外科 1、脳神経外科 1、心臓血管外科 1 (AAA など)、皮膚科 3、耳鼻咽喉科 1、指定なし 1、計 169 となっております。消化器外科は消化器内科経由でも大変お世話になっております。他の科でも院内紹介にてお世話になっております。診療時間内急患対応 (AMI、消化管出血 Appe など) していただいたのが 7 でした。実数を把握できませんが夜間、休日救急でお世話になっていると思います。単年で早期胃がん 10 例見つかった年がありましたが、すべて県立中央病院消化器内科で内視鏡治療していただきました。また逆紹介は 10 になります。

あらためて多くの患者さんがお世話になっていることを感じました。当院はまだ地域包括関連の算定はありませんが、今後ともよろしく願いいたします。



あべ内科・消化器科クリニック
院長 阿部 礼司 (あべ れいし) 先生

医療法人明慧会あべ内科・消化器科クリニック

〒住所	〒020-0146 盛岡市長橋町 17-45							
電話・fax	☎019-605-5311・fax019-605-5312							
診療科目	消化器科、内科、胃腸科、呼吸器科、循環器科、アレルギー科							
診療時間		月	火	水	木	金	土	日
	8:30~12:30	●	●	●	●	●	●	休
	14:00~18:00	●	●	休	●	●	休	休
休診日	日曜日、祝祭日							



★ 岩手県立中央病院健康講座のお知らせ ★

日 時：平成 27 年 7 月 12 日 (日) 14:00~16:30 (受付は 13:30~)

会 場：フラザおでって (盛岡市中ノ橋 1-1-10)

内 容：「アトピー性皮膚炎と食物アレルギーの最近の話題」 皮膚科長 森 康記

「アレルギー性鼻炎」 中央手術部次長兼耳鼻咽喉科長 遠藤 芳彦

「アレルギーをどう防ぐ? - 食事出来ること -」 管理栄養士 齋藤 香菜

外来診療スケジュール（紹介患者用）

（平成27年5月1日現在）

岩手県立中央病院

診療科	月	火	水	木	金
血液内科	村井一範	田苗健	濱田宏之	佐藤彰宜	宮入泰郎
総合診療科	坂本和太	橋本洋	橋本朋子	大和田雅彦	櫻井広子
腎臓内科	中屋来哉	佐々木浩代	吉川和寛	相馬淳	加藤香廉
精神科【※完全予約下記参照】	佐々木由佳	佐々木由佳	佐々木由佳	佐々木由佳	佐々木由佳
神経内科	新患担当	大澤宏之		菊池貴彦	
呼吸器科	守義明	佐々島朋美 （藤原病） 佐藤麻美子	宇部健治	佐藤司	中島義雄
消化器科	池端敦崇 渡邊	赤坂威一郎	小天野良 崇彦	城戸治淳 谷	新患担当
循環器科	野崎英二 村明浩 金澤正範	野崎英二 高橋徹 藤秀晃	野崎英二 村明浩 藤秀晃	野崎英二 高橋徹 金澤正範	野崎英二 高橋徹 金澤正範
小児科【特殊外来有】	三上仁 ※小児心療内科、小児循環器科については、小児科外来にお問合せください。				
消化器外科・外科	望月泉 齋藤之彦	井上宰	白田昌広 西渉	宮田智剛 川彦	村上和重 上村崇宣
乳腺内分泌外科	大貫幸二 佐藤未道 辺来雄	宇佐美伸 佐藤未道 来雄	大貫幸二 梅邑明子	大貫幸二 宇佐美明子 梅邑	宇佐美伸 梅邑明子 来雄
整形外科	松谷重恒 金澤憲利 矢野尚	小野田五月 日下仁		松谷重恒 小野田五月 金澤憲利	中日下豪 日野利尚 矢野
脳神経外科	三河茂喜		菅原孝行		木村尚人
呼吸器外科【要予約】 （診察12時半から15時）			大浦裕之	石田格	
心臓血管外科		長嶺進 小田克彦		垣畑秀光 長嶺進	
小児外科	島岡理			島岡理	
皮膚科	森康記 渡辺彩乃	森康記 渡辺彩乃	森康記 渡辺彩乃	森康記 渡辺彩乃	森康記 渡辺彩乃
泌尿器科	千葉裕一 島谷蘭子 樋口知見	岩動一将 島谷蘭子 樋口知見	千葉裕一	岩動一将 島谷蘭子 樋口知見	岩動一将 島谷蘭子 樋口知見
産婦人科	葛西真由美 村井眞也	葛西真由美 村井眞也	鈴木博也 木井眞	鈴木博也 木井眞	鈴木博也 木井眞
眼科	久保抄子	佐々木克哉	吉田憲史	佐々木克哉	吉田憲史
耳鼻いんこう科	遠藤芳彦 阿部俊彦	阿部俊彦	遠藤芳彦 阿部俊彦	遠藤芳彦	遠藤芳彦
放射線科（〇は治療科）	〇太田伊吹 〇松岡祥介 及川茂夫	佐々木康夫 〇太田伊吹 〇松岡祥介	佐々木康夫	佐々木康夫 〇松岡祥介	佐々木康夫 〇太田伊吹
がん化学療法科	加藤誠之	加藤誠之	加藤誠之	加藤誠之	加藤誠之
ペインクリニック科	佐藤朗	佐藤朗	佐藤朗	佐藤朗	佐藤朗
歯科（口腔外科）	横田光正 齋藤大嗣	横田光正 齋藤大嗣	横田光正 齋藤大嗣		横田光正 齋藤大嗣
緩和ケア外来【完全予約制】				担当医師（午後）	担当医師（午後）

- 受付時間は精神科と呼吸器外科を除き8:30～11:00（土・日・祝日・年末年始を除く）です。
- 急患の場合は、休診日にかかわらず、24時間いつでも受け入れております。緊急時は、必ず該当診療科へ電話連絡をお願いします。
- 当日受診の際は、診療申込書の受診希望日欄に当日の日付をご記入ください。
- CT・MRI等の高度医療器械の利用についても、紹介患者様を優先いたします。なお、FAX紹介の際には検査部位を必ずご記入ください。
- 精神科の予約につきましては担当医との調整がありますので653-1151(内線2256)平日13:00～14:00電話のみの予約となります。

*外来診療スケジュール、医師の出張などに伴う不在情報はホームページで毎月更新しています。

<http://www5.pref.iwate.jp/~chuohp/>



TEL 019(653)1151(内線2191 地域医療連携室)
FAX 019(654)5052(地域医療連携室)